

2013年7月21日 マタイ 6:16-18「神はあなたを見ておられる」

久しぶりにマタイ福音書の解き明かしを再開する。今日は6章16-18節。これは、6章1~18節にかけて、一連のシリーズの最後のもの。おさらいが必要ですね。一連のシリーズで3つのテーマが取り上げられています。名づけるならば、偽善者3部作とでもなりましょうか。全体を通してのイエス様の教えの主題は、1節の言葉です。「人の前で、人からの評価を求めて善行をしないようにしなさい」。この教えを展開するために、3つの具体例をあげておられます。施し(2-4節)、祈り(5-15節)、断食(16-18節)です。これらは、イエス様がお語りになった当時のユダヤ社会において、敬虔で信仰深い人々が重んじていた三つの善行です。

同じパターンで三回繰り返されます。まず当時のファリサイ派に代表される「偽善者たち」のありようが示され、厳しく批判される。そして「彼らはすでに報いを受けている」。それに対して、そうではない新しいありかた、イエスの弟子にふさわしいありようが示されまして、「そうすれば、隠れたことを見ておられる父が、あなたに報いてくださる。」と繰り返される(4, 6, 18節)。

「報い」ということが、一つの大きな鍵でした。偽善者たちは、人間的・地上的な報いを求めて行動します。彼らが求めるのは人からの賞賛です。名誉です。そして自分への尊敬であり、評価です。それがほしかった。そして、ほしい分だけ全部もらう。それ以上は期待もしていないし、期待もできない、それ以上のことなど考えられない。でもほしい分だけは全部もらった。それが、「すでに報いを受けている」ということ。でも、本当にそれがすべてかい？それでいいのかい？と、イエス様は問いかけておられるのです。そんなセコイものが、あなたの求めるすべてなのか？もっと大きなものを見つめなさい、永遠を見つめなさいと、イエス様は招いておられる。神様からほめてもらうことを求めなさい。

そういう風にイエス様は、私たちの視線を高く上へと上げさせようとしていてくださいます。そしてそうやって目が上に上がれば、横のことは見えなくなります。こんな狭くて小さい地上の現実の中で、誰が誰よりどうしたとか、誰の仕事がどうしたとか、そんなことを繰り返しても仕方ありません。そんなものはいくら見つめても、どんぐりの背比べです。上を見上げなさい。神様との関係だけを考えていればいい。ここに、イエス様の解放のメッセージがあります。「人の目を気にすることから自由になりなさい」という解放のメッセージです。

今日の言葉から示されることも基本的には同じです。イエス様は、人の目を気にしすぎて、窮屈になってしまっている心を解き放とうとしていてくださいます。

今日のところで取り上げられているのは、断食という善行です。皆さんの中には、断食しての徹夜祈禱会などを体験された方はいらっしゃるでしょうか。韓国では当たり前になされること。ある牧師は、一年の始まりに際して断食して祈り、一年間の説教スケジュールを立てるといふ。このような宗教的な断食は、聖書に教えられている大切な霊的訓練の一手段です。

多くの場合、断食は自分の罪を嘆くざんげと悔い改めのためになされました。聖句表をもとに後で確認していただくといいが、例えばサム下7:5-7には、民が主なる神を裏切ってバアル

とアシュトレトを拝んでしまったことの罪を悔いるための断食がなされています。あるいはネヘミヤ 9:1 ではイスラエルの人々が集まって断食し、自分たちの罪と先祖の罪悪を告白するという場面がある。

また断食は、神様からの啓示を受け取るための準備でもあるのです。モーセは、主と契約を結ぶ際にシナイ山に一人でのぼり、そのまま 40 日 40 夜過ごしたというのですから、これは断食していたということでしょう。そしてダニエル 9 章はぜひ確認しておいてほしい。ここではダニエルは民族を代表して断食し、深い悔い改めの祈りをささげつつ、神の語りかけを待つ。使徒言行録においても同じような意味での断食がなされている。13:2、兄弟姉妹があつまって断食をもって祈って、神の御心を問い、バルナバとパウロを異邦人伝道に派遣する。

このようにして断食というのは、自分の罪を嘆き悲しむための苦行でありますし、心を研ぎ澄まして神へと集中していく、祈りに集中していくための霊的な訓練の手段です。私はしばしば申し上げるが、神と向き合うことは自分と正しく向き合うことでもありますし、自分をまっすぐに見つめることのできない人に、神とまっすぐ向き合うことはできません。神と向き合い、自分と向き合う。これを避けては信仰生活の醍醐味を味わうこともできませんが、断食と言うのは、そのようにして神と向き合い自分と向き合うための、一つの手段であるだろうと思えます。ですから、私たちの教会でももっと実践されてしかるべき。イエス様ご自身も断食して祈られた。

ただ、そういう自分自身の霊的訓練であるはずの断食が、人に対するアピールになってしまふことがある。私たちというのは本当に貧しい心しか持っていませんので、いいことをしている、がんばっているということを人に知ってほしいと願ってしまう。最近、ソーシャルネットワークサービスが普及しまして、自分が今日こんなことをした、今こんなことを考えているということを発信しては、お友達に知らせるといことがとても簡単に日常的になされている。私もフェイスブックを利用して、便利に使っています。でも、自分自身気を付けていないといけないなあとと思うのは、自分から発信しようとする時に、やっぱりどこか格好つけてしまっているといひますか、今日はこんな仕事しましたよ、こんなにがんばりましたよと、これみよがしにアピールしてしまっている時があるということ。それが高じて、等身大の自分の姿より大きく見せようとか、働き者で仕事ができる自分に見せようと、計算しながら近況報告する人たちが増えている。逆に、人の記事を見ていると劣等感を覚えたりするのがつらくて、もうやめてしまったという人も増えている、なんてことが話題になったりしています。悲しいことに私たちはみんな同じ貧しさを抱えているように思う。こんなにがんばっていると見せたい、あの人はがんばっている人だと人から評価されたい。

イエス様は言われます。「断食するときには、あなたがたは偽善者のように沈んだ顔つきをしてはならない。偽善者は、断食しているのを人に見てもらおうと、顔を見苦しくする。」

偽善者というのは、俳優と言う言葉であると前にもお伝えしましたが、ここでは文字通り、断食という苦行に私は励んでいます、みんな見てください、尊敬してくださいという、自己演出をしているという批判。そのようにして人間にアピールしても、得ることのできるのは地上的な尊敬だけです。しかも悪いことに、そのような地上的な報いに満足してしまうと、永遠の

救いを見失ってしまう危険があるということです。ルカ 18:9-14 に、ファリサイ派の人と徴税人のたとえがある。「自分は正しい人間だとうぬぼれて他人を見下している人」の象徴として、一人のファリサイ派の人をたとえに出す。その人は神様の前で、このように言って誇る「わたしは週に二度断食し、全収入の十分の一をささげています。こういう立派な自分でいれることを感謝します。」週に二度断食する、それは確かに人間的な尺度で言えば、たいそう立派で敬虔なことだと思います。宗教家として尊敬に値する。でも、残念ながら、神様の尺度からすれば、そういう苦行をいくら積み上げても合格にはならない。ただ恵みによってのみ義とされるのであって、週に二度どころか、一週間に十日断食したって、義とされることはない。それなのに、このファリサイ派の人は、自分の業績に自己満足してしまっ、自分で自分を義としてしまっている。その結果として、永遠の救いを決定的に見失っている。地上において報いを受けるというのは、そういう危険があることなのです。永遠の報いを見失わせてしまう、大きな誘惑がそこにはあるのです。

イエス様は、そうであってはならないと教えてくださるのです。断食をはじめとしたすべての霊的な訓練は、神と向き合い自分と向き合うためのものです。そして、神からの永遠の報いに向けて、自分の歩むべき方向をしっかりと定め直すためのものです。神との関係だけが大切なのです。人からの誉を求める必要はありません、むしろ、そういうものは永遠の報いを求める求道の道の妨げになる。

だから、人にアピールしないどころか、むしろ人に気付かれぬようにしなさいとさえ注意されるのですね。頭に油をつけ、顔を洗い、いつもと同じようにしていなさい。人からどのように尊敬を受けようと、私たちの救いのためには何の役にも立たないのですから。むしろ、救いの妨げになってしまうのですから。だから、いつもと同じようにして、決して人に気付かれぬようにしなさい。

こういう教えに触れる時に、私は信仰者の孤独ということを考えさせられる。

私はしばしば、それとは反対のことを申し上げています。信仰の歩みは孤独ではない、共に主に召された兄弟姉妹と共に、神の家族と共に、互いに祈り合い、支え合い、高めあって、歩んでいくものだ。それは決して間違いではない、聖書から示されている真理。

でも、同時に孤独。神とわたしとの一対一の関係。だれもが、最後は、一人で神の前に立たねばならない時がくる。その人が、イエスを信じ従うという救いの道をふさわしく歩んできたのかどうか、一人一人問われる。そのとき、だれも代わってあげることはできない。最後は、三位一体の神とわたしとの一対一の問題なのです。友人であろうと、親であろうと、牧師であろうと、そこに介入することはできない。信仰の道とは、そういう孤独を覚悟せねばならないもの。そう考えると、私たちには他の人のことを気にしている暇なんてないのです。永遠の報いを追い求めて、神としっかり向き合わなくてはなりません。神にどう見られているかを、もっと気にしなくてはなりません。今日のイエス様のお言葉には、そういう厳しさを私たちに思わせずにはいないものです。

しかし、「厳しいなあ」という印象で終わってほしくはないのです。こういう説教を受け取る

と、誰もが自分に厳しくなります。でも、自分を掟で縛り付けることはやめてほしいのです。神様だけを見なくちゃ、人間の評価を気にしてはいけないと、今度はそんなことばかり気になって、ああ断食を人に気付かれてしまった、だめだ一となっていかれる方がいる。でもそれでは本末転倒です。イエス様は、私たちをそのような肉の思いから解き放とうとしておられる方だということを、決して忘れないでください。大事なことは、神が与えてくださる永遠の報いのすばらしさを仰ぎ見ることです。

最後に皆さんには、神が見ていてくださることの慰めに触れて、今週の歩みに向かっていただきたいと思います。イエス様は最後にこう言われました。「そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる。」神が見ていてくださる、これが大前提です。神が見ていてくださるから、人に見られていなくても平気なのです。だれにも気付かれないような善き業も、しっかりとその心にとどめてくださって、決して無意味に終わることのないように用いてくださり、ほめてくださるのです。

しかもこの神は、あなたの父として見ていてくださると言います。父といっても、評価の厳しい点数主義の冷たい父ではない。この父は、不良の家出息子がただ家に帰ってきたというだけで諸手をあげて喜んでくださるような、点数の甘い父です。この父は、他の人との比較によってあなたを評価したりなさいません。わたしが、このわたしに必要な霊的訓練にしっかり取り組んでいたか、このわたしに与えられている賜物を十分に用いていたか、このわたしだけに用意してくださった特別な信仰の道を、自分のペースで、自分のリズムでしっかりと最後まで歩きとおしたか。ただ、そのことだけを問われます。

そしてこの父は、わたしの中に生まれた、ほんの小さな信仰さえも、確実に見出してくださって、永遠の救いに導いてくださる方です。わたしの中に生まれた、ほんの小さなよい心をも、確実に見出してくださる方です。わたしが取り組んだ、ほんの小さな霊的訓練をも、確実に数え上げてくださって、くしゃくしゃにほめてくださる方です。

以前の説教でも申し上げましたが、私は、天における父なる神の報いとは、神からくしゃくしゃにほめていただくことだと思っています。その時を、望みみて生きていきたいと思っています。今は私たちには神は見えません、その声を直接お聞きすることはできません。しかし終わりの時に到来する神の国において、私たちは完全な慰めの中に入れられて、神と顔と顔をあわせ、神のもとで安らぐことができます。その時に、父が、くしゃくしゃにほめてくださるのです。よくやった私の息子よ、私の娘よ、お前は私の教えに生きようと、お前にできることを精一杯がんばった。疲れたろう、たくさん傷ついたろう、たくさんのおちも犯したね、たくさん失敗したね、でもお前は、私がお前に用意した道をしっかりと歩み通したと・・・くしゃくしゃにほめてくださる。私たちの天の父は、そういう方です。

この父が、隠れたことを見つけてくださいます。人からどう評価されようが関係ありません。この父が、すべてを見ていてくださいます。私が覚えていないようなことまで、すべてを見ていてくださって、私の思いを超えて、くしゃくしゃにほめてくださいます。だから、今週も一日一日、自分に必要な霊的な訓練を重ねながら、丁寧に歩んでまいりましょう。